

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	3年度
事業名	学校安全体制整備事業	担当課	教育課
事業内容(簡潔に)	学校及び通学路の安全確保を図るための事業		

1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	将来を担う子どもをのびのび育むまちづくり
	政策	子どもが夢を持ち続けることができる教育の充実
	施策	学校教育の充実
関連する個別計画等		根拠条例等

2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	学校及び通学路の安全確保及び地域における防犯体制の確立を図る。
事業の手段	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校に常駐警備員を各校1名配置する。 青色灯パトロールカーで通学路の巡回指導及び安全対策を行う、スクールガードリーダーを1名配置する。 児童生徒の不慮の事故に備え、AED(自動体外式除細動器)を各校1台設置している。 通学路防犯のため設置している街路灯の維持管理。 P.T.A、スクールガードボランティア等による見守り活動を実施している。
事業の対象	各小中学校及びその通学路における児童・生徒の安全確保

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		30年度	元年度	2年度
財源内訳	A 事業費 (千円)	13,558	13,681	14,884
	国・県支出金	126	98	102
	その他(使用料・借入金ほか)			
	一般財源	13,432	13,583	14,782
B 担当職員数(職員E) (人)	0.1	0.1	0.1	
C 人件費(平均人件費×E) (千円)	686	672	658	
D 総事業費(A+C) (千円)	14,291	14,353	15,542	
主な事業費用の説明	<ul style="list-style-type: none"> 常駐警備員及びスクールガードリーダーの任用に係る人件費及び共済費 AEDの維持管理費用 街路灯の電気料、スクールガードボランティアベスト購入(R2) 			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した30年度(6,862千円)、元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)を使用しています。

4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
活動指標	1 常駐警備員配置校数(校)		7	7	7
	2 スクールガードリーダー巡回日数(日)	年間巡回日数(登下校時の1日2回)	94	92	97
	3 スクールガードボランティア人数(人)	小中学校全7校の配置人数	138	151	150
妥当性	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない				
上記活動指標と妥当性の説明	1	小中学校全7校に常駐警備を配置し、登下校時の安全管理及び日常の校内環境整備を実施している。			
	2	スクールガードリーダーが週に2日程度、危険箇所及び不審者出没実績箇所の重点的な監視を実施している。			
	3	スクールガードボランティアが各学校の登下校時に見守り活動を行っている。			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値			
			30年度	元年度	2年度	
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	スクールガードリーダー巡回回数(回)	100回(県基準) 小学校1校当たり20回/年	188	184	194
	2	通学路安全対策において確認した注意喚起の対応数(箇所)	対応件数/合同点検時確認箇所	6/7	3/6	2/4
	3					
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない				
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	スクールガードリーダーの活動について、山梨県地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業補助金要綱の基準に沿って実施しており妥当である。(過去3ヶ年共に県基準の1.8~1.9倍の実績)				
	2	警察、国、県、市道路管理者、市総務課、小中学校、PTA代表と危険箇所を点検し、対策協議を行い、看板の設置や路面表示の設置を行うことで交通事故防止へつながっている。 (合同点検箇所には過去設置のものも含め注意喚起看板等のハード面での対策が講じられている)				
	3					

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)				
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どのような形で具体化するのか)				
	令和3年度の改善計画(今後の事業展開説明) ・今後も各学校に警備員を配置し且つスクールガードリーダーの市内巡回を続け、子どもが安全に通学できるようにする。 ・青色灯パトロールは、総務課危機管理担当が委託しているシルバー人材センター職員と教育課学校教育担当で任用しているスクールガードリーダーで巡回しているため、今後もより一層連携を強化していく。 ・通学路の危険箇所については、スクールガードリーダーやスクールガードボランティアとも情報共有し、登下校時に見守りを行い、子どもたちが安全に通学できるようにする。 ・学校ごとに通学路の再点検を行い、合同点検による危険箇所(これまでに指定していなかった見通しのよい道路や抜け道も含め)で対策が必要な箇所は、警察署や道路管理者と協議を進める。				
過去の改善経過	改善の経過	平成17年	スクールガードリーダーの配置		
		平成18年	小中学校各校1名の常駐警備員の配置		
	直近の評価結果	内部評価	令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大 - <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	
外部評価		令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止		
改善案		・今後も各学校に警備員を配置し且つスクールガードリーダーの市内巡回を続け、子どもが安全に通学できるようにする。 ・青色灯パトロールは、総務課危機管理担当が委託しているシルバー人材センター職員と教育課学校教育担当で任用しているスクールガードリーダーで巡回しているため、今後もより一層連携を強化していく。 ・小学校ごとに作成している「子ども110番の家マップ」を中学校で共有する仕組みを構築し、中学生に周知徹底していく。 ・子どもの安全が守れるようスクールガードリーダー、スクールガードボランティアの効果的な運用方法について総務課と連携して検討していく。また、児童生徒に対しては、自分自身を守る安全教育を引き続き行っていく。			
課長所見	・他県での通学路での痛ましい交通事故を教訓に、学校ごとに実施した通学路の再点検結果を通学路安全推進会議において関係機関で共有し、優先順位をつけて危険箇所のリスク低減対策を講じる。 ・物理的に対策が困難な危険箇所における登下校時の心構えも含め、学校では、警察署の協力を得ながら、児童生徒に「自分の身は自分で守る」といった危険予測・回避能力を身につけさせる交通安全教育のさらなる徹底を指導していく必要がある。				